

③ 東南アジア

【1】 東南アジア全体の動向

朝鮮戦争（1950～53）を機に、東西対立はアジア・太平洋地域にも広がり、アメリカ合衆国は社会主義勢力に対抗するために同盟網を構築した。

アメリカは、1951年に（1）と相互防衛条約を、オーストラリア・ニュージーランドとは太平洋安全保障条約（ANZUS）を結んだ。また、インドシナ戦争のジュネーヴ休戦協定締結後の1954年には、民族解放闘争の高揚に備えて、アンザス諸国に（1）・タイ・パキスタンなどを合わせて（2）（SEATO）を結成し、社会主義のベトナム民主共和国（北ベトナム）に対抗してベトナム共和国（南ベトナム）を支援した。1965年に合衆国のジョンソン大統領が北爆を実施して、合衆国の介入によりベトナム戦争が激化するなかで、1967年にインドネシア・マレーシア・（1）・シンガポール・タイの5カ国は（3）（ASEAN）を結成して地域協力をめざした。当初は反共軍事同盟の色彩が強かった（3）は、1971年には東南アジア中立化を宣言し、1992年にはASEAN自由貿易圏（AFTA）を結成した。

【2】 ミャンマー（ビルマ）

1948年にイギリス連邦から完全に離脱したビルマは、1962年に軍部クーデタでネ＝ウイン政権が成立した。その後、民政に移行したが、1988年に再び軍事クーデタが起こり、軍政がしかれた。この軍事政権は国名を（1）と改称し、そのなかで民主化運動の指導者として活躍していた（2）を自宅軟禁とした。その後、（1）は1997年に東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟し、（2）も2010年には軟禁をとかれ、民主化の動きも進んでいる。

【3】 タイ

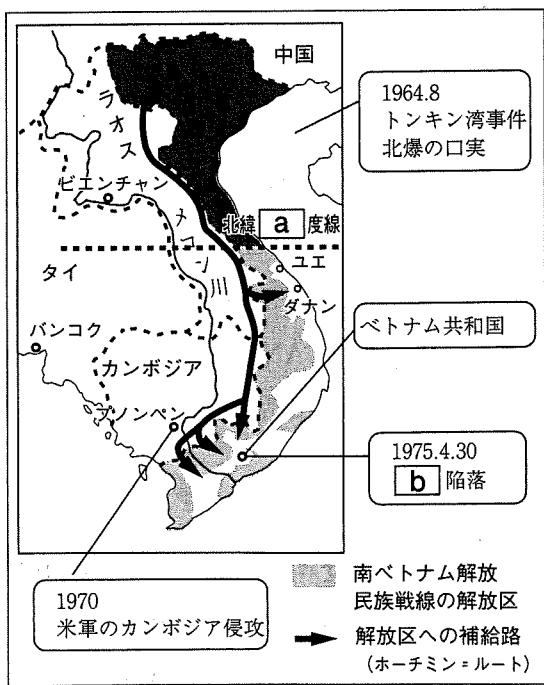
タイは、第二次世界大戦中、日本側に立ってアメリカ・イギリスに宣戦したが、戦後にこの宣戦を無効として敗戦国になることを回避し、独立を維持した。立憲王政下で軍人の政治への干渉が続き、しばしば軍事クーデタが起こった。対外的には反共路線をとり、1954年には東南アジア条約機構の結成に加わり、1967年には（1）（ASEAN）の結成にも加わった。1997年には通貨バーツが暴落し、（2）危機と呼ばれる経済混乱の発端となった。

【4】 ベトナム

19世紀以来フランスに支配されていたインドシナでは、第二次世界大戦が始まり、1940年に日本軍が進駐すると1941年に（1）が結成されて対日武装闘争を行い、1945年の日本の敗北後、（2）の建国を宣言し、（3）を大統領に選んだ。しかし、1946年にはイ

ンドシナへの復帰をはかったフランスの公然たる軍事介入によりインドシナ戦争（1946～54）が始まり、1949年にはフランスの援助で（4）が建てられ、バオ＝ダイを主席とした。その後、1954年にフランスは（5）の戦いに敗れ、（6）会議で休戦協定を結んでインドシナから撤退した。

ベトナムは、1954年の（6）休戦協定で、北緯（7）度線を境に南北に分割され、翌年南部に（8）（南ベトナム）が樹立された。これを、フランスに代わってアメリカ合衆国が支援した。しかし（8）では、（9）大統領の独裁下で民衆の不満が高まり、1960年には（10）が結成された。その後、1963年に（9）政権がクーデタで倒れた後も、クーデタが相つき、政情は不安定であった。そのためアメリカは介入を強化し、（11）大統領が1965年に北爆を開始して、ベトナム戦争が本格化した。しかし、戦線は泥沼化し、国際世論もアメリカに対して日増しに厳しくなった。その結果、アメリカは1968年に（12）和平会談に踏み切り、1973年にはニクソン大統領が（12）和平協定に調印して米軍の南ベトナムからの撤退を実現させた。（13）の陥落によって戦争が終結したのは、その2年後の1975年であった。そして翌1976年には南北統一が実現して、（14）が成立した。しかし、その後ベトナムは、隣国カンボジアの（15）政権との国境紛争が激化した1978年にカンボジアに侵攻して親ベトナム政権（ヘン＝サムリン政権）の樹立を助けたが、（15）派と結ぶ中国の侵攻を受け、中越戦争が起こった。ベトナムは、国際的に孤立し、経済も疲弊して、多くの難民を出した。このため1986年から市場経済の導入や外貨の導入をうたった開放経済政策の（16）（刷新）を採用し、1989年にはカンボジアから撤兵した。1995年にはアメリカとの国交が正常化し、東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟した。



北緯 a 度線…ジュネーヴ休戦協定（1954）で決定された暫定的軍事境界線
b …ベトナム共和国の首都

ベトナム戦争